

2022 年度(令和 4 年度)

事業計画書

(第 12 事業年度)

自 2022 年 1 月 1 日

至 2022 年 12 月 31 日

公益社団法人企業メセナ協議会

<目次>

コロナ禍を乗り越え 創造的な社会の実現に取り組む企業メセナの価値を発信	2
重点目標と施策	2
I.組織運営	4
II.事業計画	5
調査・研究	5
認定・顕彰	8
会員ネットワーク/セミナー	11
相談・協力・コンサルティング	12
助成	13
広報	15
III.年間スケジュール	17

**コロナ禍を乗り越え、
創造的な社会の実現に取り組む企業メセナの価値を発信
～ SDGs時代の芸術文化 ～**

今年で設立から32年目となる昨年、協議会はコロナ禍の大きな影響を受けながらも、工夫を加え事業の継続に注力し事業運営を行った。厳しい状況ではあったが、リモートの活用など新たな可能性も広がった。昨年秋以降、ワクチン接種が進み新たな治療薬の開発も進行するなど、少しずつ日常生活が戻り始めている。しかし、コロナ禍により社会が抱えるさまざまな問題が今まで以上に顕在化し、SDGsに代表される社会課題への取り組みの重要性や、さまざまな国々やステークホルダーが協力、連携して解決に取り組むことの大切さも浮き彫りになった。また、デジタル化やITの活用が加速度的に進むとともに、在宅勤務やリモートでの打合せや会議が一般化し、場所を選ばない働き方や医療、福祉への活用など、社会のあり方が大きく変わってきている。

このようにダイナミックに変化する社会の中で、創造的で心豊かな、誰もが幸せを感じることができる社会の実現のために、芸術文化の果たす役割の重要性はさらに増してくる。社会をつくるのは人間であり、人間が有史以来芸術文化を育んできた。ここで今一度、芸術文化の果たす役割、企業メセナの貢献の意義やあり方を問い直す必要がある。今後の30年間を見据えて、設立以来蓄積された資産を活かしながら、この大きな時代の変化を捉え、中間支援組織として社会や企業、芸術文化団体などから求められ、あるいは今後求められることに対応しているか、プラットフォームとなり得ているか、などの視点から、すべての事業を再度見直し、改善・変革すべきことを計画的に実行して行くための年としたい。同時に、協議会の基盤となる会員の獲得についても、引き続き活動への共感を得ながら積極的に働きかけを行う。

現在だけではなく一歩先のニーズも捉え、企業メセナの価値を高めながらアピール力を強化し、芸術文化を通じた社会創造に寄与していく。

■重点目標と施策

1. 時代の大きな変化を見極め、すべての事業活動の見直し、改善を行う。必要な場合は変革のための計画を立案し、実行する。

① 調査・研究

- ・引き続き企業メセナの経年変化の比較を行う。また、社会の変化をさらに反映できるように調査項目を検討し、調査結果から明らかになる企業メセナの変化、現在の社会の中で果たしている役割を明らかにし、発信する。
- ・グローバルな視点から、日本企業のメセナ活動の特徴を発信する。
- ・会員企業などへの海外を含めた情報提供や要望に応えられる体制を整える。
- ・協議会ならではのライブラリーの意義、あり方を協議会全体で再検討する。その結果を受けた運用ルール案を策定し、活用できる体制をつくる。
- ・一昨年度導入したアンケート調査システムをさらに使いやすく改善する。

② 認定・顕彰

認定 (TIM)

- ・TIM の認知度が着実に上がってきている。さらに多くの活動の掘りおこしを行う。また、発信力を強化することで活動の顕在化、発展に寄与する。

顕彰 (アワード)

- ・時代が大きく変化する中で、これからを見据えてアワードのあり方を検討し、変革が必要な場合は全体の整合性を考慮に入れた案を策定し、計画的に実施する。
- ・審査基準についても再考するなど、できるところから改善を行う。

③ 助成事業

- ・2021ArtsFund の活用を図り、ファンド設立のためのコーディネートも積極的に行うなど、さまざまな活動の実現に寄与する。
- ・既存の全国のネットワークを活用し、助成制度の特徴についての理解と活用を促進することで、全国で行われているさまざまな芸術文化活動の活性化に貢献する。
- ・利用者、管理者にとって利用しやすいシステムへの改善を継続的に行い、協議会ならではの助成制度をよりわかりやすく周知し、今まで以上に幅広く活用されることにより全国の芸術文化の振興に寄与する。

④ 広報

協議会として何を、どのように発信するべきかを考え、前例にとらわれない発信を心掛ける。

- ・常に広報活動の効果を分析し、協議会全体として最大の効果が発揮できるよう引き続き年間計画に基づき戦略的な広報を着実に行う。
- ・HP、プレスリリースなど、効果的な発信のための分析を行い、ノウハウを蓄積しながら改善につなげる。
- ・ターゲットを絞った広報など、新たなルート作りにチャレンジする。
- ・各事業の連携をさらに進め、多彩なメセナをタイムリーで効果的に発信を行う。

⑤ コーディネート、コンサルティング

- ・メセナの専門機関として、集積している情報とネットワークを活用し、企業をはじめ芸術文化振興にかかわる内外機関などからのさまざまな相談、協力の要望に応え、活動のサポート、促進を図る。
- ・多様な交流を積極的に進め、必要に応じて外部専門家の知見を得ながら、幅広い視点から活動のレベルアップに貢献する。

⑥ 30周年記念事業

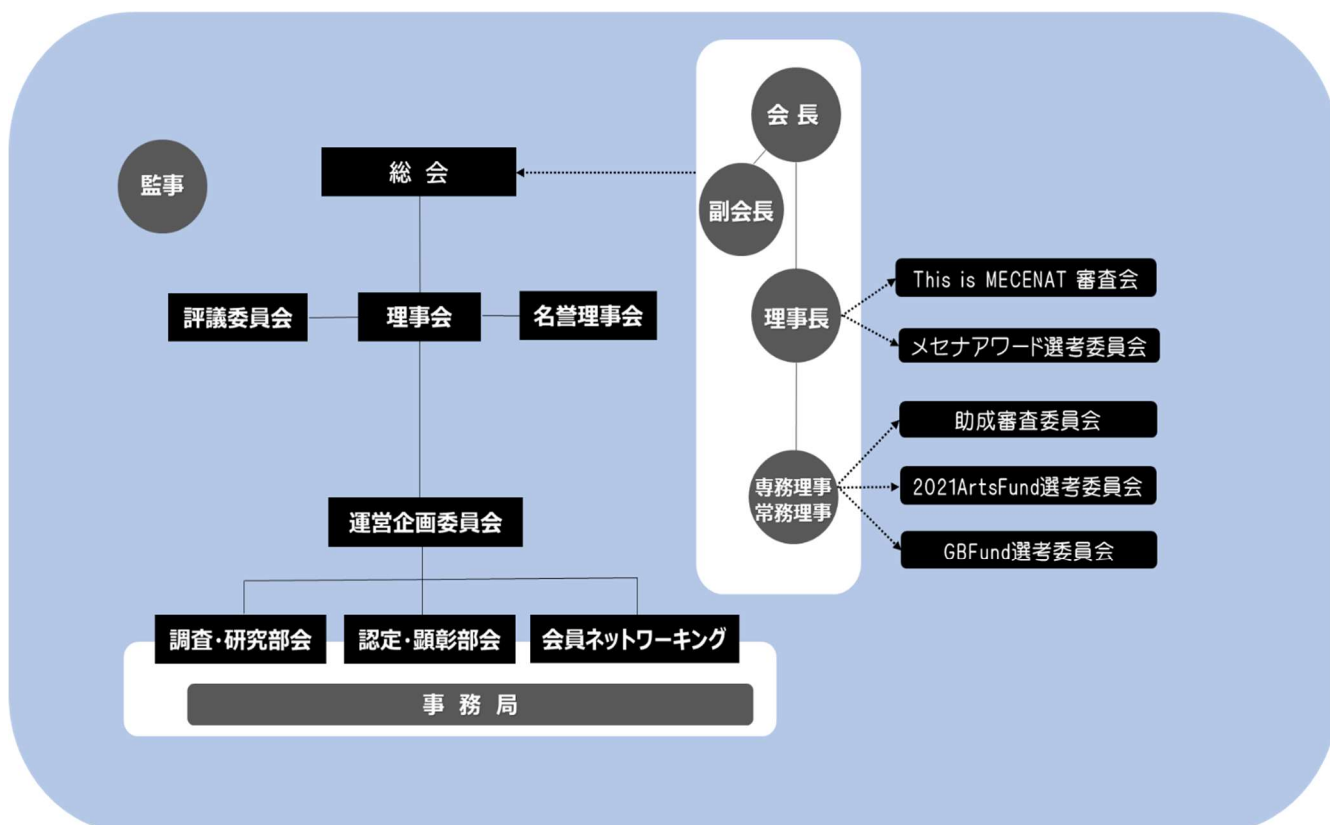
- ・コロナ禍により延期した 30 周年記念交流会、特別講演会などについて、安全性や状況を見極めながら、可能であれば実施する。

2. プラットフォーム機能を充実させる

- ・オンラインツールも活用しながらタイムリーで有効な「場」、「情報」の提供を行い、会員とのコミュニケーションを強化し、適宜柔軟に必要な「場」、「情報」の提供を行う。
- ・部会、ワーキンググループの活性化を図る。
- ・芸術文化関連団体などとの連携も深め、セミナー、視察などを通じて芸術文化振興の促進に寄与するよう努める。
- ・全国メセナネットワーク(13 団体)の幹事として、総会などでの情報交換や議論を通じて交流を深めながら、全国各地での活動の活性化に貢献する。

- 事務局の専門性の向上、会員サービスの向上に努め、協議会としての価値を高める。
 - ・協議会に蓄積された情報や知見を活かしながら、大きく変化する社会の動向や企業のニーズを理解し、企業メセナおよび協議会のプレゼンスの向上に努める。
 - ・事務局内管理システムの運用ルール、活用方法を再点検し、各事業への支援、会員などへのサービスの向上を図るための検討、計画を立案し改善を行う。

I. 組織運営



1. 総会

会員が一堂に会し協議会の事業・運営について合意形成を図るとともに、会員相互に交流する機会と捉えて、芸術文化振興に関する情報提供と、メセナ推進についての意見交換ができる場となるよう努める。[2022年3月開催]

2. 理事会
協議会の事業推進と組織拡大に努める。[通常理事会:2月、12月／ほか臨時理事会]
3. 役員会
理事を中心に、名誉理事・評議員・顧問を含めた役員合同会議を行うなど、協議会運営について幅広く指導を仰ぎ、あわせて情報の共有を図る機会とする。[年1回程度開催]
4. 運営企画委員会
各部会・ワーキンググループ・プロジェクトチームの事業展開について共有・協議し、事務局とともに理事会への提案を行うなど、芸術文化振興に関する諸課題について実質的な議論を行う。[年4回程度開催]
5. 部会・ワーキンググループ、プロジェクトチーム
部会・ワーキンググループは各事業の方向性や制度設計等について議論し、事務局の実務の遂行に対してアドバイスを行う。
 - 調査研究部会:メセナ活動実態調査および事例研究等の推進
 - 認定顕彰部会:認定制度「This is MECENAT」顕彰事業「メセナアワード」の推進
 - 会員ネットワーキンググループ:会員相互のネットワーク形成に資する活動を展開

II. 事業計画

【調査・研究】

■目的

日本の企業メセナの現状と可能性について調査・分析。日本のメセナ活動の状況・トレンドを理解し、またメセナ活動それぞれの固有の価値を抽出する。企業メセナの多様な価値を顕在化するとともに、今後の企業メセナ推進の一助となるよう、情報の整備を行う。

■事業内容

1. メセナ活動実態調査

●令和4年度文化庁委託事業／委託期間:2022年4月～2023年3月

全国のメセナに取り組む企業・企業財団を対象とする定期調査。前年度の各社・団体の取り組み実態について、例年6～7月、企業約2,100社・企業財団約300団体へアンケート票を配布。夏から秋ごろに事務局での集計を経て、調査研究部会で議論を行い、翌春頃に集計データから見える最新トレンドを発表する(報告書『Mecenat Report』発行、報告会の実施)。

調査結果は国内におけるメセナに関する唯一の統計調査として、企業・企業財団、国、自治体、文化機関等で活用されている。

2. メセナに関する事例研究(メセナアソシエイト・協議会アソシエイト)

・令和4年度文化庁委託事業／委託期間:2022年4月～2023年3月

2014年度より開始したメセナアソシエイトは、メセナ研究者育成を目的に毎年公募で募った若手外部研究員と協働し、「メセナ活動実態調査」や協議会把握データの活用、メセナ企業等へのヒアリング調査により、専門性を活かしたメセナの価値を掘り下げる事例研究を行い、結果を協議会HP上で公開する。

2020年度より開始した協議会アソシエイトは、芸術文化分野の若手研究者育成や最新情報の入手を目的に、協議会が設定するテーマに合わせて調査レポートを作成し、HP上で公開する。

3. メセナに関する国際調査

・令和4年度文化庁委託事業／委託期間:2022年4月～2023年3月

国外における企業メセナや中間支援組織の活動について、基礎データを収集し、日本との比較を行い、日本の企業メセナの位置づけ、国際的なトレンド・兆候について情報収集を行う(対象国:アメリカ・イギリス・フランス・オーストラリア等)。

4. 情報ライブラリーの運営

協議会発行物やメセナ・文化政策・アートマネジメント等に関する書籍、企業・企業財団のメセナ資料の管理、利用者対応を行い、Webライブラリーとも連携する。

■課題

- 1.「メセナ活動実態調査」について、新規にメセナを行い始めた企業や近年回答のない企業等の掘り起こし。集計データの十分な分析と近年の兆候をとらえるための考察時間の確保。システム回答で、不備が多かった回答者画面のフォーム改善、回答者および管理者画面機能の追加検討。
- 2.会員企業に対する調査結果の十分なフィードバック、および協議会各事業での活用機会の拡大。
- 3.情報ライブラリーの蔵書や資料の整理および活用方法の改善。

■重点施策

1.「メセナ活動実態調査」の回答率向上と分析強化

- 1-1.未回答企業および財団の掘り起こしを行い、システム化による回答負担軽減化を周知するなど、回答率増加を目指した実施方法の改善を行う。
- 1-2.システム化による業務の効率化をさらに進め、調査結果についての議論、追加調査を行うなど、より深い分析を行うように努める。

1-3.調査部会のメンバー拡充を図るとともに、適宜外部の専門家を交えた議論の機会を設けるなど、調査の質の向上を図る。

2. 「メセナ活動実態調査」システムの機能向上を行い、実態調査全体の効率化を図る。

一昨年度は回答者側の調査票基本部分の作成を中心にシステム化を行った。昨年度は回答者および管理者が使いやすいよう機能の追加を行った。本年度は回答者および管理者画面のさらなる改善や機能追加を検討し実施することで、作業効率の向上と作業時間の短縮を図る。

3. 調査結果の活用機会の拡大、調査報告書の充実

3-1.年 1 回程度、調査研究部会と連動した報告会を実施。前年度「メセナ活動実態調査」の回答傾向や具体的事例を取り上げ、ゲスト講師を招くなど実態調査を深掘りする。

3-2.調査報告書の送付先を引き続き公益財団、芸術団体、大学、経済団体を含む研究機関などへも広げ、メセナ活動の意義や実施団体の実態などについてより広く周知する。

3-3.調査報告書送付時のアンケートを継続して実施し、活用状況や要望を把握するように努める。昨年度から始めたメールでのアンケート送付も行う。また、調査結果に基づき、必要に応じて回答企業へヒアリングを行う。

3-4.調査報告書の内容については、アンケート結果や他のレポートなどを参考にしながら、調査項目や報告書の内容の充実に努める。

4.メセナアソシエイト制度の充実に図り、成果も含め外部への広報を強化

4-1.本年度も様々な立場から、メセナ活動の今日的課題をテーマに事例研究を行い、少人数での密度の高い協働研究を目指す。

4-2.2022 年度で開始から 9 期目になる。一昨年度加えた協議会アソシエイトとともに研究発表の場(セミナー等)を設け、外部からの参加者だけでなく歴代アソシエイトへも参加の声掛けを行い、協議会とメセナアソシエイトの連携を強化する。また、引き続き、レポートの Web 公開を行い、若手研究者育成や情報提供によりメセナ活動活性化へ貢献する。

4-3.必要に応じて外部 Web サイトとの連動やリンクを検討するなど工夫を加え、成果をできるだけ活用してもらえるように努める。

5. 国外における企業メセナや中間支援組織の基礎データの収集と Web での公開

諸外国の企業メセナや中間支援組織の活動について、基礎データを Web 調査によって収集し、最新情報や日本との比較情報を日本語版および英語版 Web サイトで公開する。

6. 情報ライブラリー蔵書整理、Web ライブラリーと連動した活用への改善

ライブラリーに関わる他事業担当者も交え、Web ライブラリーを含めた現状の管理方法と今後のあり方について話し合いの場を設け、見直しを行う。策定した方針に基づき蔵書整理を行う。多くの方が芸術文化の中における企業メセナについて理解を深め、活用できる場にする。

【認定・顕彰】

■ 目的

メセナの姿およびメセナが社会創造に果たしている役割を、活動事例から明らかにする。認定制度で多様なメセナ活動を幅広く顕在化させると共に、顕彰によりメセナの意義と重要性を広く社会に周知する。これらの制度により、メセナに取り組む企業・団体を奨励し、一層の活動の充実に寄与する。

■ 事業内容

1. 認定事業「This is MECENAT」

多様な企業のメセナ活動を可視化し、裾野を拡げることが目的に 2014 年に創設した認定制度。「これぞメセナ」と認定された活動には、シンボルである「メセナマーク」を年度毎に発行し、専用サイト「メセナアーカイブ」に蓄積するほか、顕彰事業「メセナアワード」と連動して運営。

2. 顕彰事業「メセナアワード」

1991 年に創設した、優れたメセナ活動を顕彰する事業。「メセナアワード 2015」より、「This is MECENAT」と連動して運営。認定年度の翌年に、特に優れた活動 7 件(メセナ大賞 1 件、優秀賞 5 件、特別賞:文化庁長官賞 1 件)を選考し、受賞活動に対して、表彰状とトロフィーを贈呈する。[文化庁後援]

※This is MECENAT およびメセナアワードの審査・選考は、協議会が委嘱した外部の有識者によって行われる。

■ 課題

「This is MECENAT」ではより多様な活動を発掘し、メセナの裾野を広げる。

「メセナアワード」では賞のあり方を再考し、社会における企業メセナの意義の発信を強化。

■ 重点施策

1. 「This is MECENAT 2022」

1-1. 事業間の情報共有・活用と新規活動の掘り起こし

メセナ活動の第三者評価として、「This is MECENAT」の認知度が着実に上がっており、認定企業の約3割が新規となっている。引き続き会員の登録促進とともに、調査研究事業における実態調査回答企業・財団へ呼びかけを行うほか、広報事業でのクリッピング記事も活用する。コロナ禍での新たな取り組みや社会変化に対応した活動などについてリサーチし、積極的に登録を依頼する。

1-2.地域におけるTIM認知度向上に向けた働きかけ

首都圏以外の地域における認定企業も増えてきている一方、メセナと認識せずに活動を継続している地元企業も潜在的に多くある。認定を受けた企業の活動をもとに、その地域の地方自治体、経済団体、NPOなどにTIMについての理解を深めてもらい、TIMの認知度向上と応募・推薦に向けた働きかけを行う。あわせて、対象が企業による芸術文化支援であることを明確にするために、募集要項についても見直し、より分かりやすく伝わるように工夫を加える。

1-3.多様な媒体による効果的な発信と認定メリットの強化

認定活動は、積極的に「アート&カルチャー」への掲載をはじめ、SNS・メールマガジンとも連動させ、「メセナライター」の記事トピックスとしても取り上げるなど、効果的な情報発信を行う。また、外部の配信サービスや地方紙への個別リリースを引き続き行うとともに、業界紙・過去関係したメディアへの個別リリース、NPOや関連団体への広報協力依頼、認定証書の発行を行うなど、認定メリットの強化を目指す。

1-4.TIM認定企業のフォローアップ

認定後も引き続き活動担当者とコミュニケーションをとり、情報収集するとともに、必要に応じてオンラインツールも活用しながら、企業同士の情報交換の場を設けるなど、認定企業がTIM認定のメリットを享受できるようにする。認定を受けて協議会に関心をもち、入会につながった事例も出てきており、メセナ活動のさらなる充実や発展に寄与していくように努める。

2.「メセナアワード 2022」

2-1.社会の変化に応じた、選考基準などの再考

2021年はコロナ禍による社会の変化に迅速に対応した取り組みが評価された。これからの社会における芸術文化、企業メセナの意義がより伝わるよう、現在の大賞・優秀賞の選考ポイントと評価方法などを再考し、より分かりやすく活動の特徴、意義が伝わるよう再整理する。認定・顕彰部会や選考委員のご意見もいただきながら、必要に応じて賞の枠組みや選考過程についても検討し、時代に即し社会に貢献する多様なメセナ活動の発掘・顕彰を目指す。

2-2.受賞活動の発信を促進

受賞活動について、10月を目途にプレスリリースを配信、11月下旬に贈呈式を行う。式典では受賞各社・団体の経営層に登壇していただけるよう働きかけ、協議会ウェブやTIM専用サイト、SNSで効果的に発信するほか、オンライン配信も実施し、遠方の企業やプレスなどに向けて広く「メセナアワード」の周知に努める。受賞後は、贈呈式レポートとしてウェブで発信するほか、アーカイブ動画も掲載する。

2-3.企業メセナのプレゼンスの向上

アワード受賞活動やTIM認定活動については、セミナー・ネットワーキング事業と連携し、企業メセナの好事例として講演会や視察などの開催を検討する。また、選考委員にもセミナーなどへご登壇いただき、企業メセナの知見や社会的意義について理解を深める機会の提供にご協力いただくなど、企業メセナおよび協議会のプレゼンスの向上につなげる。



This is MECENAT 2022／メセナアワード 2022 ロゴ



メセナアワード 2021 贈呈式

[This is MECENAT／メセナアワード実施要領]

- ・This is MECENAT 2022 募集時期：2022年3月～5月
- ・メセナアワード 2022 エントリー〆切：2022年5月末、贈呈式：11月下旬予定
- ・審査委員長：萩原なつ子（立教大学・教授／（認特）日本NPOセンター代表理事）
- ・審査委員：
 - 新井鷗子（横浜みなとみらいホール館長／東京藝術大学・特任教授）
 - 佐倉 統（東京大学大学院情報学環・教授
／理化学研究所革新知能統合研究センター・チームリーダー）
 - 中島信也（株式会社東北新社代表取締役社長／CM演出家）
 - 仲町啓子（実践女子大学・教授／秋田県立近代美術館特任館長）
 - 山口 周（独立研究者、作家、パブリックスピーカー）
 - 尾崎元規（企業メセナ協議会理事長）

【会員ネットワーク | セミナー】

■目的

会員相互の情報交換と交流の促進、研鑽の場を提供し、企業とアート NPO・市民団体・文化政策に携わる国や自治体・教育機関等組織をつなぐ活動を行う。「メセナ」に関する中間支援団体として、プラットフォームづくりを通じ、相互交流の促進を目指す。

■事業内容

1. 会員ネットワーキング活動の実施

新入会員の顔合わせの機会として「新入会員ファーストミーティング」を実施するほか、会員の関心が高いメセナの現場を視察し研鑽を深める「会員ネットワーク勉強会」「メセナ美術部・メセナ音楽部」「会員交流会」により、会員各社・文化関係者の交流・ネットワークづくりを促進する。

2. セミナー、講演会等の企画・実施

調査・研究、認定・顕彰、助成など基幹事業と連携した各種セミナーのほか、メセナ・文化政策等に関するセミナー、講演会を企画・実施する。

3. 「全国メセナネットワーク」の事務局を担う（2019/4～2023/3）

1996年に発足した、国内各地のメセナ関連団体相互の交流、情報交換、協力を図り、各団体それぞれのメセナ活動を促進し、地域の文化振興に寄与する事を目的につくられた会。全国メセナネットワークの幹事として事務局を担い、総会の実施、会員交流会の企画運営、会計処理を行い、地域のメセナ活動の活性化に貢献する。

■課題

1. 会員各社団体・文化関係者に向けてタイムリーで多様な交流機会の設定、ネットワーキング活動の活性化
2. 時代の変化を捉え、これからの企業メセナについてのセミナーテーマを設定、国内外における先進的事例の紹介
3. オンラインツールを活用した効果的な交流や発信力の強化

■重点施策

1. よりタイムリーで多様な会員ネットワーク活動の企画・交流機会の設定

昨年はコロナ禍のため実施できなかったが、今年度は会員ネットワークの各活動について、よりタイムリーで多様なテーマに即した企画を設定し、適宜オンラインツールも活用しながら、できるだけ多くの会員への情報提供や意見交換を深められる場づくりを目指す。また、首都圏のみ

ならず地方会員との交流機会も設け、会員間の連携を図る。引き続き、会員ネットワーキンググループの意見をふまえ、様々な会員ニーズを反映した内容を検討する。

2. 時代の変化を捉えたセミナーの開催、国内外における先進事例の紹介

2-1. 調査研究事業との連携セミナー・報告会

2-2. 文化政策系セミナー(国内外および地方自治体における文化政策の動き)

2-3. 助成事業との連携セミナー(寄付、税制、法律、ファンドレイジング、フィランソロピー全般等)

2-4. 文化と経営等をテーマとする講演会(企業トップ、メセナアワード受賞企業、文化人等)といったテーマを柱に、各事業の知見を活かしたセミナーを引き続き開催するとともに、延期している30周年記念講演会・交流会の実施も検討する。また、社会変化に対応した国内外の文化政策の動きやコロナ禍での新たな企業メセナの事例紹介、これからの芸術文化支援の役割について考える企画なども検討する。時代のニーズを捉えながら、テーマ・ゲスト選定を行い、会員各社・団体をはじめ、芸術文化振興にかかわる内外機関と連携して、芸術振興のさらなる発展や人材育成にも資する質の高いセミナーを行う。

3. ウェブサイトをはじめオンラインでの効果的な発信・会員サービスの充実

セミナーやイベントはオンラインと同時開催にし、広く企業メセナの周知に努めるとともに、アーカイブ動画としても蓄積する。あわせて、オンラインを活用して会員限定のコンテンツを設けるなど、会員のメセナ活動の充実に寄与する内容も検討する。開催報告のレポートについても、引き続きウェブサイトでタイムリーに発信し、得られた知見・実例等を積極的に紹介していく。

4. 全国メセナネットワークの活性化を図る

地域の文化振興に寄与することを目的につくられている全国メセナネットワークについては、国内各地13団体の交流や情報交換がスムーズに行えるよう努める。ホームページの充実を図り、幹事として現地の要望をヒアリングし、今後の組織のあり方を議論するなど、活動の活性化につなげる。

【相談・協力 | コンサルティング】

■ 目的

コーディネート、コンサルティング機能を強化し、企業や芸術文化に関わる諸団体の活動に寄与し、活発化させる。アート NPO や市民団体、文化政策に携わる国や自治体、教育機関等からの相談・協力依頼に積極的に対応し、セクターを越えた文化振興プラットフォームとしての役割を果たす。

■事業内容

1. 企業、文化団体やアートNPOなどからの相談対応、コンサルティング業務

「メセナよろず相談日」等の実施により、会員をはじめ企業・企業財団、民間の文化団体、自治体等からの相談に対応する。

2. 企業・自治体等からの文化事業の受託・実施

3. 諸団体からの講演依頼、評価委員等の受託

自治体、大学、文化団体等からの講演、審議委員等の依頼に対応する。

■課題

コーディネート、コンサルティングにおける、事務局内リソースの活用と、提案力の向上

■重点施策

1. メセナの専門機関として、企業を中心に幅広く文化セクターなどの相談に応じる

四半世紀以上にわたり蓄積してきた協議会のノウハウ・ネットワークを活用し、メセナの専門機関として、企業を中心に幅広い相談に応じるとともに、文化団体やアートNPO、企業との連携を望む自治体等をつなぎ、パートナーシップによる芸術文化振興を推進する。

2. 事務局内の柔軟な体制による、提案型コンサルティングの実施

各相談案件のテーマに最適なチームをつくり、各事業のノウハウ・知見を活かした提案を行う。

【助成】

■目的

芸術・文化活動に対する企業・個人からの寄付を促し、特定公益増進法人の特性(寄付金の税制優遇の適用)を活かした制度運用を行い、寄付者と活動者との間をつなぐ役割を担うことで、芸術文化の振興を図る。

■事業内容

1. 助成認定制度

特定公益増進法人の特性を活かした制度運用により、支援者には寄付をしやすく、活動者には寄付を集めやすくすることで、芸術文化活動への民間寄付を税制面から促進する。芸術文化団体(活動者)の申請を受けて、審査および活動の認定を行う。

2. 2021 芸術文化による社会創造ファンド[2021 Arts Fund]

社会創造につながる創造性あふれる芸術文化活動への寄付を促進し、寄付者の意向に沿っ

た支援プログラムのコーディネーターおよびファンドの運営を行う。

尚、活動者が寄付を集めるために利用する場合も、助成認定制度と同様に、活動の申請を受け付け、選考および活動の採択を行う。

※1, 2ともに同スケジュールにて申請と審査・選考を年 4 回実施している。

3. 芸術文化による災害復興支援ファンド[GBFund]

東日本大震災の発災をきっかけに、芸術文化による復興ファンドを設立。その後認定災害を広げ、2020 年度は新型コロナウイルス感染症を対象災害として認定した。趣旨に賛同した寄付者の方とともに、被災者・被災地を応援する目的で行われる芸術文化活動や、被災地の有形無形の文化資源を再生する活動支援を行う。

認定災害: 東日本大震災／熊本・大分地震／平成 30 年 7 月豪雨／新型コロナウイルス感染症

4. 助成制度利用促進

毎月1回、助成制度利用を検討している団体を対象に助成相談日を設け、個別相談に対応している。新型コロナウイルス感染症拡大により一般化したオンラインを活用して全国からの相談に対応し、制度利用促進を図る。

■課 題

1. 助成制度の特徴理解の促進
2. 芸術・文化団体への助成制度利用の普及
3. 助成事業の「かるふあん！」サイトの見直し

■重点施策

1. 2021 Arts Fund における目的別ファンド設置推進に向けた改善

2021 Arts Fund は、特定の活動や目的のために寄付を促す仕組みとして、寄付者の意向に沿うファンド設置が可能だが、利用の多くは、助成認定制度で規定している事業規模を超える、大型の個別芸術文化活動に対する寄付促進の位置づけでの運用となっている。

2016 年から 5 年間の活動を終え、2021 年に 5 年間の総まとめを行った SOMPO アート・ファンドや、2017 年から開始した The Okura Tokyo Cultural Fund などの事例を踏まえ、企業のメセナプログラムとして、2021 Arts Fund 内に目的ファンドを設け、企業の要望に沿ったファンド運営を促進していく。

2. 助成認定制度の利用促進

特定公益増進法人である協議会を通じた寄付は、公益的な芸術文化活動への寄付であり、寄付者が税制優遇を受けることができるというメリットもあり、一定の理解を得て、継続的に利用している芸術文化活動者が多い。その一方で、初めて利用しようとする活動者にとっては、制度理解が難しいこともあり、新規利用の団体数は多くないのが現状である。制度の特徴の理解を促進し、より多くの活動者の利用を目指し、利用促進計画案を作成し、実施していく。

「芸術文化活動者」、「寄付者」それぞれの利便性を高め、分かりやすい説明をすることによって、利用促進を図り芸術文化活動の振興に寄与する。

2-1. ツールの充実

制度の理解促進のため、紹介ツールの充実を図る。事業パンフレットの作成、説明資料や帳票等の全面見直しを実施する。かるふあん！サイト(制度説明)の全面見直しを実施する。

2-2. かるふあん！システムの利便性向上

2-3. かるふあん！マイページの更なる改良により、利用者の利便性向上を図る。

2-4. 助成相談窓口の再構築検討

各都道府県に過去設置されていた助成相談窓口のあり方を再検討し、オンラインを活用して全国への周知を図り、制度利用促進にむけた活動実施案を作成する。

【広報】

■目的

協議会各事業の取り組み、および会員各社団体などのメセナ情報等を広く発信し、「企業メセナ」の周知と多様な価値の見える化、協議会のプレゼンス向上に寄与する。

■事業内容

1. 国内外に向けた企業メセナ・協議会活動に関する情報発信

・プレスリリース配信、メールニュース(月1回、不定期)

・協議会ウェブサイト(日英)の管理・運営、コンテンツ制作

「アート&カルチャー」:協議会会員のメセナイベント情報を紹介

「メセナライター制度」:外部ライターによる、メセナの現場・協議会行事の取材レポート

公式 SNS(Facebook、Twitter、Instagram)の運用

・記者発表会等の実施

2. 協議会発行物の制作・管理

- ・『メセナアワード』冊子、セミナー報告書等印刷物の制作管理

■課 題

1. 発信力の強化のための戦略的広報計画の策定と実施
2. 会員各社団体、とくに地方会員企業、および地域メセナに関する情報発信
3. メディアリレーションの強化
4. 協議会に蓄積された資産の活用

■重点施策

1. 発信内容のバリエーションと時代に応じた媒体や発信方法の検討

現在協議会がもつ WEB 媒体であるホームページ(アート&カルチャー、かるふあん！含む)、SNS (Facebook、Twitter、Instagram) の多様な活用とともに、他の媒体やツールの特徴を理解した上での最適な発信内容や方法を検討し、可能であれば活用に繋げる。

2. 定期的なアクセス解析の実施

HP のアクセス数をもとに定期的にアクセス解析と振り返りを行い、ウェブサイトや SNS の利用方法の改善を検討しながら効果的な運用の最適化を図り、戦略的広報計画につなげる。

3. アート&カルチャーの周知と利用の拡大

会員をはじめ「This is MECENAT」当年度認定活動へ積極的に声がけをし、掲載数を増やすことでサイトのプレゼンス向上を図る。

4. メセナアワード受賞後の活動発信

メセナアワードを受賞した活動の一定期間後のレポートを企業メセナ訪問記などで取り上げ、受賞後の活動の様子、展開などを発信する。

5. メディアリレーションの強化

各媒体への積極的な働きかけを行っていく。

Ⅲ. 年間スケジュール

月	事業	組織運営
1月	■調査研究部会	新年賀詞交換会(1/21)中止
2月	◆助成相談日 開催	◎第1回運営企画委員会(2/10) @ヒカリエカンファレンス ●第23回通常理事会(2/17)@ 大手町フィナンシャルシティカン ファレンスセンター
3月	◆助成認定制度&2021 アート・ファンド選考・審査委員 会◆助成相談日開催■Mecenat Report 2021 発行 ★TIM(This is MECENAT)2022 募集開始 ■国際シンポジウム 3/15@大手町フィナンシャルシティ カンファレンスセンター	●第11回定時社員総会&第40 回臨時理事会(3/3)@大手町フ ィナンシャルシティカンファレンス センター
4月	■メセナアソシエイト第8期レポート公開 ■メセナアソシエイト第9期募集開始 ◆助成相談日 開催	
5月	★TIM(This is MECENAT)／メセナアワード応募〆切 ■調査報告会 ■メセナライター募集開始 ◆助成相談日 開催	
6月	★TIM(This is MECENAT)審査会 ◆助成認定制度&2021ArtsFund選考・審査委員会	
7月	■調査アンケート開始 ◇新入会員1stミーティング(予) ◆助成相談日 開催	◎第2回運営企画委員会 ◇30周年記念交流会(予)
8月	◆助成相談日 開催	
9月	◆助成認定制度&2021ArtsFund選考・審査委員会 ◆助成相談日 開催 ■調査アンケート〆切 ★メセナアワード選考会、受賞活動決定	
10月	★メセナアワード受賞活動発表 ■国際セミナー(予) ◆助成相談日 開催	
11月	★メセナアワード2022贈呈式	◎第3回運営企画委員会
12月	■調査研究部会 ◆助成認定制度&2021ArtsFund選考・審査委員会 ◆助成相談日 開催	●第24回通常理事会&第4回 運営企画委員会

